

堀田小学校と「カインズ」

名古屋市立堀田小学校の運動会を昨年が続いて見学した。5年の林京香さん、3年の千陽さん、「きょうちー」姉妹の活躍ぶりを見るためだ。それと地域社会における学校、「地域と学校」の関係をこの目で確かめることもあった。



『瑞穂区誌』1994年などから、堀田小学校がエリアとする「堀田学区」を概観する。瑞穂区の西に位置し、名鉄堀田駅を中心とした商業地域である。学区の面積は区内で一番小さく、人口密度が一番多い。西は新堀川、東は郡道、南は名鉄名古屋本線に囲まれ、学区の中央を南北に堀田通が走っている。学校前の堀田通（高速道路）に地下道があり、通学の際に利用されている。この地は、もともと低湿地帯で、災害にも悩まされてきた。伊勢湾台風の時、堀田駅周辺が水に浸かった。集中豪雨などでも、たびたび水に浸かることがあるという。明治44年（1911）、精進川の開削工事完了によって新堀川と改称されてから、川沿いに大小の工場が造られるようになった。近年、工場跡地に大きなゴルフ練習場や高層住宅が建設されている。ゴルフ練習場あとに、現在「カインズホーム」が巨大店舗を構えている。



堀田小学校も校舎の老朽化と児童数の増加に対処するため、昭和56年（1981）4月にこの住宅の東に移転した。堀田小学校の移転跡地には、瑞穂社会教育センターと惣作公園がつくられ、緑の少ないこの地区の憩いの場所として利用されている。堀田小学校の児童数も大きく変動してきた。昭和30年代には1300人を超える年もあったが、最近では激減し、今年度は232人ととどまる。京香さんの5年生も、1組30数人だけだ。

さて、運動会の話に戻る。日差しが強いグラウンドに来て、なんだか緑が少なくなったと思った。それと写真のように、南側に長く続く「壁」が気になった。理由を聞くと、南側の木を切ったそうだ。昨年はそこで美味しいお弁当を食べたところだ。せっかくの木をなぜ切ったのか。「カインズ」から落ち葉が出るといった苦情があり、学校側で木を切ったという。正直驚いた。父兄の間でも、あまり問題にならなかったようだ。35年前にここに移転して、高層住宅などに囲まれながらも、校庭南の木々も大きく育ってきた。高層住宅に囲まれた学校を潤す貴重な緑であった。

それなのに。「カインズでは、もう買わんず」といった住民の声が出なかったのか。地域社会がもっと学校に関心を持ち、学校を大切にしていけることが求められているのは、などと考えながら、運動会が続く学校をあとにした。

(2016年6月18日)